

## 雄大な北アルプスと安曇野を一望

視点	地域性
尺度	傑出性

なりわい景観

# 長峰山

ながみねやま



展望台：

長野自動車道「安曇野」  
ICより30分



- 面** 約1.5ha  
(広場、駐車場)
- 所** 安曇野市明科
- 管** 安曇野市
- 問** 0263-71-2000 (代)

長峰山は、安曇野市の東に位置し、雄大な北アルプスと、その峰々を背景に広がる水田、屋敷林や社寺林等の集落の緑、湧水からの流れや川沿いの緑、わさび畑などが美しく連なる田園景観とともに、安曇野を潤し流れ下る犀川、高瀬川、穂高川の三川合流地を眼下に見下ろす絶好のビューポイントである。1970（昭和45）年に、作家の川端康成、井上靖、日本画家の東山魁夷が訪れ、長峰山からの眺めを「残したい静けさ、美しさ」と絶賛した。山頂部には、北アルプスと安曇野のパノラマを満喫できる展望台があり、全国から多くの観光客が訪れている。

眼下の田園は、北アルプスの山麓の大規模な複合扇状地において、先人たちが苦労しながら構築し田畑を潤す捨て堰や、湧水を活用した安曇野のワサビ田が広がる田園景観である。

(文責：藤村忠志・写真・安曇野市)

## 秘境に轟音たてる、壮大な二条の滝

視点	地域性
尺度	代表性

### 米子瀑布群

よなごばくふぐん



自然景観

上信越自動車道「須坂長野東」ICより約50分、登山道を徒歩約30分（紅葉シーズンはマイカー規制あり）



- 面** 約 58.6ha  
(名勝指定面積)
- 所** 須坂市米子
- 管** 須坂市
- 問** 026-245-1400 (代)

米子瀑布群は、須坂市を流れる米子川の上流、標高約1,600m付近に位置する。標高差100m、長さ1,000mに及ぶ四阿火山カルデラの岩壁があり、その岩壁および周辺を十数条の滝が流れ落ちている。中心的な滝である権現滝は落差約80mで、轟音とともに直線的に豪快に落ち、不動滝は落差が約85mで、柔らかく広がる霧状の滝である。

この滝を中心とした景観は壮観で、新緑から紅葉まで訪れる人々を魅了している。また、権現、不動の名からも知れるように、権現信仰や不動尊信仰など古来から信仰性が強く、米子不動尊奥之院や幾多の石仏や祠が建っており、多くの信者が訪れている。

米子瀑布については、『信濃奇勝録』（1834年）や『信濃宝鑑』（1900年）にも記述され、古くから親しまれ、1972年に須坂市指定名勝「米子の瀑布」に、1990年には、日本の滝100選「米子大瀑布」に指定された名瀑である。2016年には、国指定名勝「米子瀑布群」に指定された。

（文責：三澤陽平 写真：須坂市）

写真上：須坂市指定名勝「米子の瀑布」、下：須坂市指定有形文化財「瀧山不動寺奥の院」

## 歴史を感じる情緒豊かな雪国の温泉街

視点	地域性
尺度	典型性

### 渋温泉 しぶおんせん

長野電鉄「湯田中」駅  
より車で5分



- 面** 約 15ha
- 所** 下高井郡山ノ内町
- 管** 渋温泉旅館組合
- 問** 0269-33-2138  
(山ノ内町観光連盟)

上信越高原国立公園の志賀高原を源とする横湯川沿いに点在する温泉地一帯は「湯田中渋温泉郷」と称されている。現在9つある温泉地のなかで、「渋温泉」は湯田中と並び規模も大きく、湯煙立ち上がる石畳の情緒あふれる温泉街である。源泉が数多く存在し、豊富な湯量と泉質が魅力で、九湯めぐり（厄除巡外湯めぐり）は名物のひとつとなっている。

今から約1300年前の奈良時代、僧・行基が開湯したと伝えられる。山深い温泉地のため、土砂災害等に度々見舞われるも、再興を繰り返しながら湯治場として栄えてきた。温泉地を取り巻く豊かな自然と、鉄道など交通の進展に伴って、大正から昭和初期に建てられ増改築を繰り返した複雑な木造建築が多数残る、独特の町並み景観が魅力となっている。

渋温泉は、温泉地としての歴史、街並み景観、近隣のスキー場や取り巻く自然、そこに暮らす野生生物と人とのかかわりなどが一体となって多くの人を魅了している。

## 温泉に入るスノーモンキーたちの楽園

視点	地域性
尺度	希少性

### 地獄谷野猿公苑

じごくだにやえんこうえん

■ JR「長野」駅よりバスで「スノーモンキーパーク」下車、徒歩35分  
 ■ 車の場合は上林湯泉無料駐車場に駐車、徒歩35分



**開** 1964年  
**面** 約0.6ha  
 (受付～温泉の区域)  
**所** 下高井郡山ノ内町  
**管** (株)地獄谷野猿公苑  
**問** 0269-33-4379

その他

地獄谷野猿公苑は、志賀高原から流れ出る横湯川の渓谷にある地獄谷温泉に位置し、標高は850mで冬には1mを越える積雪がある。

開苑は、1964（昭和45）年で「猿と人間の共生を観光客に見せること」に徹し、ニホンザルの生態を間近で観察できる「野猿公園」として、殊に雪景色の中、温泉に入るニホンザル“snow monkey（スノーモンキー）”が国際的に知られ、国内外から多くの観光客が訪れている。

もともとは、リンゴ畑などサルによる農業被害対策として山中で餌付けを試み、1962年ころ餌付けに成功したもので、その後「猿と人間の共生」のための餌付けの可否の議論や工夫、猿専用の露天風呂の整備などが行われた。また、入苑時の禁止事項などが定められるとともに学術的な生態調査研究も続けられ現在に至っている。

（文責：佐藤博文 写真 山ノ内町）

## 執筆者一覧

新潟県：上野裕治

長野県：上原三知、大窪久美子、佐々木邦博、佐藤博文、田口ちはる、藤村忠志、三澤陽平

静岡県：小林天竜、中嶋光彦、西島弘一郎

富山県：酒井尚裕

石川県：池田徹大、上田哲男、小坂健一郎、島由治、鏝隆弘、新田川貴之、野村敦、村上貢

福井県：藤田若菜

岐阜県：相田明、飯塚隼弘、百海琢司、長谷川泰洋、三浦景樹

三重県：藤本和弘

愛知県：井上忠佳、岡田憲久、岡村穰、梶野保光、小池敦夫、小林恒雄、夏原由博、橋本啓史、長谷川泰洋、丸山宏、吉田勇次

コラム：相田明、飯塚隼弘、井上忠佳、上野裕治、大窪久美子、笠間三生、佐々木邦博、酒井尚裕、鏝隆弘、西島弘一郎、藤田若菜、藤本和弘、三村起一、吉田勇次

編集協力：浜口美穂、茶原真佐子

## 中部地方ランドスケープ遺産選定委員会

小池敦夫（中部支部長）、夏原由博（副支部長）、中嶋和敏（副支部長）、相田明（岐阜県とりまとめ）、浅井正明（～2016年度）、井上忠佳、今西良共、上田哲男（石川県とりまとめ）、上野裕治（新潟県とりまとめ）、大窪久美子、岡田憲久、岡村穰、笠間三生（2017年7月～）、風間一（2017年度～）、小林恒雄、小林天竜（静岡県とりまとめ）、酒井尚裕（富山県とりまとめ）、佐々木邦博（委員長、長野県とりまとめ）、高取千佳、鏝隆弘（石川県とりまとめ）、中村孝（～2017年6月）、橋本啓史（愛知県とりまとめ）、藤田若菜（福井県とりまとめ）、藤本和弘（三重県とりまとめ）、丸山宏、水内佑輔（2017年度～）、三村起一（～2018年6月）、吉田勇次

---

## ランドスケープ遺産百選 中部編Ⅱ～人の評価した風景～

（公社）日本造園学会 中部支部

〒468-8502 愛知県名古屋市天白区塩釜口1-501  
名城大学農学部ランドスケープ・デザイン学研究室 気付  
（公社）日本造園学会中部支部事務局

平成30（2018）年11月11日発行  
印刷・製本：冊子印刷社（有限会社アイシー企画）